

事業計画書

事業名	みんなの見沼田んぼ活用事業
枠の種類	ネーミング事業 (キリンビール(株)埼玉支社 地産地消・食育応援事業)
1. 事業の目的	耕作放棄地の増えている見沼田んぼに、障害福祉、貧困、見沼田んぼ保全関連団体等が協力して、さまざまな違いを持つ人を呼び込み、田畑を活用し、米や野菜を栽培。さまざまな参加者が見沼田んぼで農的活動を楽しみともに働き、見沼田んぼの環境やそこで自ら作った作物のありがたみを知る。継続して参加してもらい、様々な人に見沼で活躍する人となってもらう。
2. 事業で取り組みたい地域や社会の課題	<ul style="list-style-type: none"> 見沼田んぼの耕作放棄地の有効活用。農家だけではなく、NPOスタッフも高齢化。管理しきれない土地が増えている。畑は一度放棄されてしまっって何年か作物を栽培しないと、畑として再度使うまでに除草、耕起、土づくりとかなりの時間がかかる。今耕作されている土地も近いうちに耕作放棄されそうな場所も多い。これを田畑として維持する必要がある。このためには、単発のイベントではなく、恒常的な耕作・管理作業が不可欠。見沼の田畑はまとまった大きさのところが少なく、少しずつ空いた土地を使っっての生産販売だと利益を得ることは難しい。このため、見沼の土地を田畑としてどう維持していくかは地域の大きな課題。 食と農に対する関心はどのような分野に従事する人、どんな立場の人にも共通する。いろいろな活動や支援に関わる人がともに同じ田畑を耕すことで、分野や支援対象にとらわれない地域交流の場を作る。 障害や貧困など、これまで支援される対象とされてきた人が、何かをしてもらう人としてではなく、見沼を保全する一員として活躍してもらおう。
3. 具体的な事業内容	<p>現在、NPO 法人のらんどとして活動している見沼田んぼ福祉農園や、周辺の遊休農地を活用し以下の事業を展開。</p> <p>(1) 米づくりと里芋づくりの作業日開催</p> <p>① 趣旨：NPO 法人見沼保全じゃぶじゃぶラボに技術指導を受けながら、一般個人や異業種NPO 団体のメンバーとともに、米と里芋を生産。見沼田んぼという名の土地ながら 6%程度になっってしまった田んぼの保全。見沼田んぼの土地によく合った里芋の生産で無理なく畑を活用。参加者が見沼の土地の特性を知り、いろいろな人がともに同じ田畑を耕すことで交流。会員や近隣農家、NPO 関係者との交流・意見交換。</p>

- ② 時期：6月から11月 月3回
- ③ 対象者：一般個人、各種NPO法人関係者、のらんど会員
- ④ 場所：見沼田んぼ福祉農園と周辺農地
- ⑤ 参加見込み人数：各回10名
- ⑥ 協力者・団体：NPO法人見沼保全じゃぶじゃぶラボ

(2) 田畑の管理

- ① 趣旨：作業日だけではやりきれない作業、日常的な除草や作物の見守り、天候に合わせた作物の生長管理。
- ② 時期：6月～2020年2月 週3から5日（田畑の状況による）。
- ③ 場所：見沼田んぼ福祉農園、周辺農地

(3) 収穫を祝う会の開催

- ① 趣旨：作業に関わった参加者が集まり、収穫を共に祝う。収穫物を見沼田んぼでいっしょに食べることで、自分たちで作ったもののありがたみや環境のすばらしさを確認する。参加者の見沼田んぼに対する理解度の確認と、満足度と次年度に向けた希望を問うアンケートを行う。
- ② 時期：11月
- ③ 場所：見沼田んぼ福祉農園、周辺農地
- ④ 参加見込み人数：30名

4. 具体的な事業の実施計画

- (1) 米づくりと里芋づくりの作業日開催
- (2) 田畑の管理
- (3) 収穫を祝う会の開催

① 実施までの準備

NPO法人見沼保全じゃぶじゃぶラボとの打ち合わせ、現地確認、除草。各種NPOとの打ち合わせ。Twitter アカウント作成。Web サイト作成会社との打ち合わせ。チラシデザイン、印刷。

② 事業のスケジュール

時期	
6月	里芋畑管理、田んぼ管理／関連団体との打合せ
7月	田畑管理／広報
8月	田畑管理
9月	米収穫・乾燥
10月	米乾燥・粳摺り、田畑管理
11月	里芋掘り・収穫を祝う会
12月	田畑土づくり／翌年度準備
1月	田畑土づくり
2月	田畑土づくり

	<p>③ 広報計画</p> <ul style="list-style-type: none"> ・当事業用WEBサイト作成：参加申し込みフォームにて、参加表明が可能にする。法人WEBサイト、Facebookへリンクする。 ・法人facebookでの告知。 ・Twitterでの告知。 ・チラシ（200枚）は公民館、近隣NPO、会員等に配布。
<p>5. 個々の事業の実施により達成した成果の具体的な内容</p>	<p>(1) 米づくりと里芋づくりの作業日開催</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 参加人数：各回10名のべ180名（大人100名・子ども80名） ② 参加団体：3団体 ③ 耕作面積：田1枚500㎡、畑50㎡ ④ 収穫量：米100kg、里芋20kg <p>(2) 田畑の管理</p> <p>(1)の③の面積を耕作し、④の収穫量が確保できること。</p> <p>(3) 収穫を祝う会の開催</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 参加人数：30名（大人17人、子ども13人） ② 参加団体：3団体 ③ 米づくり、里芋づくりの集大成として、収穫した米や里芋を、作業に参加した人たちが一緒に食べる。 ④ 見沼たんぼテスト（5問程度の簡単な口頭質問）で参加者の見沼たんぼへの理解度80%。 ⑤ アンケートで次年度の参加希望者（団体）が参加者のうち30%。
<p>6. 事業の実施体制</p>	<ol style="list-style-type: none"> ① 総括責任者 サカール祥子 ② 連絡責任者 サカール祥子 ③ 現場責任者 佐藤嗣高 ④ 経理担当者 高橋葵 ⑤ 広報担当者 高橋葵
<p>7. 来年度以降どのように事業を継続し発展させていくか</p>	<ol style="list-style-type: none"> ① 他団体との連携強化 見沼たんぼ内他団体と情報交換、今後の協働に向けた交流。 ② スタッフの知識と技術の向上。 見沼たんぼや農業に関する知識や、農業技術を向上し、農地を保全する力をより強化する。
<p>8. 今回の事業が他の団体、行政等が実施する同種の事業と比べて優れていること</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・障害福祉、貧困支援、見沼たんぼ保全関連団体等、異業種の団体の協力・交流の場をつくる。これまでも地域の団体との協力・交流に力を入れてきました。 ・見沼たんぼ内で、他団体と連携する。 ・支援をされる対象の人が活躍できる場を作る。